

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2010年2月調査結果-

2010年3月11日

調査要領

- 調査期間 2010年2月15日～19日
- 調査対象 200社
- 回答企業 120社
- 回収率 60.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を合致する回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI値＝（増加・好転などの企業割合）－（減少・悪化などの企業割合）
業況・採算：（好転）－（悪化） / 売上：（増加）－（減少）

旭川市概況

※全産業の2月の状況を見ると業況DIは、前月より3.4ポイント回復の▲57.4。

平成7年4月調査開始以来179ヵ月連続マイナス2桁水準で推移している。

業種別では、卸売業・小売業・サービス業で回復となった。

※向こう3ヵ月の先行き見通し業況DIは▲60.7と悪化しており、依然として厳しい状況である。

業種別でみると、建設業・製造業・サービス業で悪化しており、地域経済や足下の景気感は依然として厳しい状況となっている。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	先行き見通し 3～5月
業況	▲51.7	▲50.8	▲57.3	▲62.3	▲60.8	▲57.4	▲60.7
売上	▲43.3	▲49.2	▲58.1	▲49.6	▲47.9	▲41.8	▲45.5
採算	▲40.8	▲40.5	▲46.8	▲51.6	▲46.3	▲40.2	▲45.9
仕入単価	▲15.8	▲12.7	▲10.5	▲15.6	▲13.3	▲22.1	▲22.1
従業員	▲9.2	▲8.1	▲14.6	▲13.9	▲17.5	▲21.3	▲23.0
資金繰り	▲21.7	▲25.8	▲24.2	▲27.0	▲25.0	▲30.6	▲30.0

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	先行き見通し 3～5月
建設	▲46.2	▲40.0	▲59.3	▲56.0	▲64.0	▲65.4	▲76.9
製造	▲71.4	▲56.0	▲52.2	▲54.2	▲50.0	▲57.7	▲61.5
卸売	▲35.7	▲55.2	▲59.3	▲55.6	▲59.3	▲50.0	▲42.9
小売	▲52.2	▲47.8	▲65.2	▲68.2	▲66.7	▲52.6	▲47.4
サービス	▲59.1	▲54.5	▲50.0	▲79.2	▲65.2	▲60.9	▲73.9

今月のトピックス（業界の声）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・銀行の貸しはがしが心配。新分野へ転換するためのふさわしい人材が旭川にはいない。社員自らスキルアップする努力をして欲しい。 ・昨年からの継続工事がピーク時にある。また、小口工事も増加の傾向。 ・民主党政権となり公共投資の大幅な減少が予想され、建設業界は更に底に向かって悪化している。公共投資は新政権における削減方針に加え、前年度の経済対策により大幅に積み増しされた反動もあり公共投資削減の押し下げ効果が大きく業況は悪化。 ・補正予算の影響で工事がピークを迎えている。
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・2月に入って少し仕事量が増えてきている。しかしまだ回復したとは思えず、政治が変わってもこの状況は変わらない気がする。この状況の中で利益を出していけるところが生き残れるように思われる。 ・年度内の関連の仕事はもう終了した様子。早く補正予算の細やかな部分を決定してほしい。それが決まらなければ話が始まらない。 ・3月から資材の値上がりをメーカー筋から通告されている。駆け込み需要に期待しているが…。 ・業界全体としては依然として厳しい状況で推移している。一方で低価格の輸入品は増加傾向にあり、国産品の良さを市場（消費者）に更にアピールし差別化を図ることが重要な課題。
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・売上は昨年と同等もしくは減少すると思われる。相変わらずの厳しい業況。 ・1月～2月は一年で一番売上の少ない月であるが、今年は特に今までになく悪い状況。 ・売上減少によりやく歯止めがかかってきたが、低レベルのまま。年度末の数字が気になるところ。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・石油製品は需給のバランスがくずれ、減産と在庫の消化により原油価格が上昇しているのに、市場価格はデフレ経済下による販売業者の値くずれにより厳しい収支となり、立ち直り出来ず欠損状況である。価格の上下が不安定要素となり、この状態が続くとスタンドの集約・撤退が起これり供給態勢に影響が出てくる。 ・シーズン立ち上がりのこの時期は集客も少なく売上が伸びづらいが、例年よりもバレンタインギフトが少なく業界全体としてはマイナス傾向にある。 ・前月同様、厳しい状況が続いている。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・市場での宿泊販売価格の下落がとりあえず落ち着いた状態。稼働率こそ前年並みであるがADR（客室単価）の落とし分を稼働でカバーできていない。経費圧縮に努めている。 ・旧正月の影響（14日）でインパウンドが中旬に集中。上旬の冬まつり期間中が営業収入減、宿泊人数はそこそこだが、宿泊・消費単価が伸びず、下旬苦戦で減収減益。 ・天候状況・路線状況が落ち着き、乗客数も横ばいの見込み。 ・旭川市の新年度予算案が2月8日に発表され、9年ぶりに前年度当初予算案を上回ったと新聞報道されたが、当社業務に関係する新年度事業量については、現在どのようになるのか未定であり不安要素が大きい。 ・冬のイベントが各地であり、多少活気が出てきている。また、冬のスポーツ大会もあり前年度並み。 ・1月の売上は増収であったが、2月冬まつり期間中は天候も悪く会場はそれなりの入込があったようだが飲食店は相変わらず低調、3月の歓送迎会に期待する。 ・冬まつり集客90万人超との発表でしたが中心部への導入効果は薄かった。道外観光客増も大事ですが、道内（特に道北）観光・買物客を取り込む工夫が必要。特に高速道路無料化による通過客の歯止め対策が緊急課題である。 ・中学・高校の入試が終わり、合格発表があるまでは毎年暇になる。 ・寒い日が続き客足が鈍い。景気が上向いて欲しいと切に願う。

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI9.5 ポイント、採算 DI6.2 ポイント回復。仕入単価 DI26.8 ポイント、従業員 DI10.9 ポイント、資金 DI22.2 ポイント悪化、総じて業況 DI も 1.4 ポイント悪化となった。業種別では、建築業 11 ポイント回復。総合工事横ばい。設備その他 20 ポイント悪化となった。新政権となり、公共投資の大幅な削減が予想され、建設業界は更に底に向かって悪化しているとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI25.6 ポイント、採算 DI17.3 ポイント、仕入単価 DI17.6 ポイント、従業員 DI17.0 ポイント、資金 DI5.4 ポイント悪化、総じて業況 DI も 7.7 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 33 ポイント、印刷出版 17 ポイント回復。家具木材 8 ポイント、金属窯業他 33 ポイント悪化となった。2月に入って少し仕事量が増えてきているが、まだ回復したとは思えないとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>仕入単価 DI17.9 ポイント、資金 DI3.7 ポイント悪化。売上 DI12.6 ポイント、採算 DI12.0 ポイント、従業員 DI7.9 ポイント回復、総じて業況 DI も 9.3 ポイント回復となった。業種別では、食料品 7 ポイント悪化。繊維横ばい。機械鋼材 14 ポイント、その他 25 ポイント回復となった。売上減少によりようやく歯止めがかかってきたが、低レベルのままとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI28.2 ポイント、採算 DI18.4 ポイント、仕入単価 DI23.8 ポイント、従業員 DI4.3 ポイント資金 DI11.8 ポイント回復、総じて業況 DI も 14.0 ポイント回復となった。業種別では、家電時計他 17 ポイント悪化。衣料品 50 ポイント、食料品 32 ポイント、自動車 24 ポイント回復となった。シーズン立ち上がりのこの時期は集客も少なく売上が伸びづらいとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>資金 DI4.3 ポイント悪化。従業員 DI 横ばい。売上 DI8.7 ポイント、採算 DI13.0 ポイント、仕入単価 DI4.3 ポイント回復、総じて業況 DI も 4.3 ポイント回復となった。業種別では、飲食 60 ポイント悪化。クリーニング、その他横ばい。ホテル、整備業 67 ポイント、運送 7 ポイント回復となった。天候状況・路線状況が落ち着き、乗客数も横ばいとの声も寄せられている。</p>